



5

道峠道の道標があり、涼しげな川の流れを右に見ながら、古道は峠を指している。入口の解説によれば、昭和61年に「甲州峠唄」が発表されたことを機に旧道復元の気運が高まり、昭和62年に地元協力を得て、荒れていた古道が整備され歩行が可能となったとされている。

「あれに白い花は コブシの花か 峠三里は 春がすみ うしろ見返りや 今来た道は 林の中を 見え隠れ 高くさえずる 妻恋雲雀 おれも歌おうか あの歌を ここは何処だと 馬子衆に問えば ここは甲州 笹子道」

なんとも印象に残る歌である。作詞は故金田一春彦氏の名前が記されていた。古道を實際に歩くと雑草が高さを増すとともに崩れた土砂が行く手を阻み、やむなく引き返すことになった。今年はまだ整備前だったかもしれない。「笹子」とはウグイスの幼名で「春を待つウグイス」の意味があるそうだ。笹子峠にこの意味が

あるかどうかは知らないが、昔の人は喜びや悲しみを抱きながら一歩一歩この峠道を登っていったのだらう。この道の勾配は、辛さよりも、想いを昇華するのに必要な時間を人々に与えていたのかもしれない。

アスファルトの道は時々古道を案内しながら淡々と峠へとつづき、「甘酒茶屋跡」を過ぎる頃には、空の近さが峠はもうすぐと教えてくれた。東屋を曲がったところでトンネルが現れた。少し湿った空気と静寂が、闇に足を踏み入れることを拒んでいるかのようである。

トンネル手前の急勾配となつている古道を登ると、峠の分岐点は小さな切り通しのようになっており、五街道とは言え、古き時代の道の細さに改めて驚く。当時の人達は本当にこの道を通って行ったのだろうか。などといにしえに思いをはせたりする。再び旧道に戻り、トンネルの反対側に出る。振り返ると大月側のトンネル入口は大和村側とは異なり、明治のころの洋風建築の趣があり、なかなかの味わいである。

ここからは「矢立の杉」を目指し、木々のつくる緑のトンネルを下る。1kmほど行くと古道があり、その古道をわずかに下った先に、その大木は忽然と圧倒的な存在感をもってそびえ立っていた。古木は幹囲9m、樹

高28mの巨木。内部は空洞となつているものの、数百年の時を生き延びた貫禄を表している。昔この峠を越える武士たちがこの杉に矢を立て、戦勝を祈願したことから名がついたといわれている。まさにその姿は森の神が宿っているかのようである。

「矢立の杉」の感動が冷めやらぬまま下っていくと、明治天皇が野だてをした跡や茶屋跡が歩く人の郷愁を誘う。土の感触は今もなお生きている古道の息吹を伝え、しばらくは時間が止まる錯覚をおぼえる。

約800mのタイムスリップは、再び旧道に出会うことで終わりを告げた。ゆるやかな下りが峠道の終わりを予感させ、やがて追分の集落へと続いていく。

笹子峠を越える旧道は、「歩くことで脈々たる時の流れを体験する」もよし「車やオートバイでゆったりと走りながら季節の風を楽しむ」もよし。

追分の集落で出会った老人が、「この道も昔は峠を越える車で賑わったもんだ、それもたった十年と少しだったけど、新しい道ができたらみんな向こうへ行っちゃった」と、ただ穏やかな笑顔で話してくれた。



# 山梨の旧道を訪ねて

一道一会  
(大月市 / 大和村 笹子峠)

国道20号や中央自動車道のトンネル開通で、今でこそ車で簡単に通過できる笹子峠も、かつては甲州街道最大の難所であった。多くの人の踏み跡を残す、わずか1間半ばかりの細く厳しい峠越えの道を歩いてみた。

甲 州街道笹子峠は、大和村日影から大月市黒野田を二里半(約10km)で結ぶ、旧甲州街道最大の難所である。

大和村の国道20号を西に折れ日影地区からはじまる旧道は、旧駒飼宿をぬけるまでのあいだ、わずかに残された同宿の本陣跡や芭蕉の句碑のみが、当時をしのばせ、今は生活道路として存在している。

旧駒飼宿を過ぎ、天狗橋の手前にある「甲州街道峠道」の道標を左に入ると、それが本来の古道。歩きはじめるとわずか数分でその道は途絶え、朽ちかけた一里塚の道標は、本来の機能を失った道を象徴しているかのようである。

古道を天狗橋に引き返し、アスファルトで覆われた旧道を峠に向かつて歩いて行くと、コンクリート工場を過ぎたころには人の気配はすっかりなくなり、木々の陰が深さを増す。新緑のトンネルをひたすら歩いていくと、木の葉のささやき、鳥のさえずり、川の音が聞こえてくる。少し汗ばんだ肌にも六月の風が心地良い。この九十九折りの道だが、車の姿を見ることがほとんどなく、五感で感じる自然を満喫しながら、さらに峠道を登っていく。

歩きはじめて一時間くらいだろうか。清水橋を渡ったあたりに「甲州街



①洋風建築の趣が残る、大月側のトンネル入口。道も時の流れの中で生まれ、変化していく存在なのだということを教えてくれる。

②大和村日影、旧駒飼宿の街並み。賑わっていたであろう街道も今では生活道路としてひっそりと存在している。

③旧国道20号から日影の街並みを望む。峠を往來する人は、この街並みをどのような想いで眺めたのだろうか。

④トンネルの上側を越える、甲州街道本来の峠道。五街道の一つとして役割を担っていた道とは思えないほどの細さだ。

⑤森の中で圧倒的な存在感を放つ矢立の杉。この大木に出会った人は、神々しさを感じずにはいられないだろう。